

寄居町の水道

今から6年前の昭和3年は、旧寄居町と折原村、鉢形村、男衾村および用土村が合併して現在の寄居町が誕生しました。昭和33年に上水道事業の認可を受けた後、象ヶ鼻浄水場、寄居取水塔および常木配水池の建設と水道管の整備を行い、昭和36年から市街地を中心とする給水を開始しました。

こうして、安心して飲める飲料水が確保できるようになつたほか、炊事や洗濯の生活用水、消火活動や公衆浴場等に使用する水等、安定した水の利用が可能になり、地域の皆さん的生活全般にわたつて安全とゆとりをもたらしました。

その後、事業認可区域を拡張し、象ヶ鼻浄水場や常木配水池の増築、新たな配水池等の建設を進め、荒川北側の地

## これからの水道

町の水道を取り巻く環境は、少子化による給水人口の減少や節水型機器の普及による料金収入の減少が見込まれる中、今後、更新時期を迎える施設を抱えるなど厳しい状況にあります。国では、人口減少社会の到来や東日本大震

## 水道水を おいしく飲む方法

こうして、安心して飲める  
飲料水が確保できるように

ました。さらに、荒川南側への給水拠点として折原浄水場・金尾浄水場・風布浄水場を建設し、昭和62年には事業認可を受けた給水区域全域への給水ができるようになります。

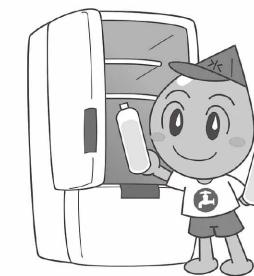
また、県営水道の受水と配水を行う寄居配水場および男衾配水場をそれぞれ平成4年、平成18年に建設し、人口の増加や企業の進出、生活形態の多様化による水需要の増加に対応してきました。

# 問い合わせ

今後も、水道水を大切に使いいただきますようお願いします。

のにおいがあまり気にならないになります。それでもにおいが気になる方は、5分ほど煮沸させた水を冷やすと、一層おいしくいただけます。ただし、煮沸させた水は塩素の消毒効果がなくなり、空気中の細菌が繁殖しやすくなるの

## 飲水のお願い



でなく、叶々に食み物を  
呑む事である。



# 氷道みはる

～水を大切に！～

今では蛇口をひねれば当たり前のようにならぬが、水道が整備される前は雨不足になると飲料水にも事欠く家庭がたくさんあり、水不足で困ることが度々ありました。昭和35年は雨不足が続いたために町内の井戸水は枯れ、飲料水や洗濯等に使う水がなくなってしまい、当時営業していた町内の銭湯は休業となり、隣町の銭湯へ通うという人も見られました。

写真は、昭和35年3月28日に発行された寄居町広報第59号の1コマです。自衛隊による給水車での給水活動の様子を伝えています。